

NEWS RELEASE

2018年3月23日

【ニュートラシューティカルズ関連事業】新製品発売に関するお知らせ



エクエルブランドから おいしさと手軽さを実現した「エクエル ジュレ」新発売 カラダの内側から美容と健康をサポート

- 大豆由来成分エクオールをはじめ、コラーゲン、カルシウムなどを配合した「エクエル ジュレ」を 4 月 3 日に新発売
- 女性が摂りたい成分を1袋にまとめたさわやかオレンジ風味のゼリー飲料
- カラダの内側から女性のキレイと健やかさをサポートし、美と健康の土台を支える

大塚製薬株式会社(本社:東京都、代表取締役社長:樋口達夫 以下「大塚製薬」)は、女性の健康と 美容を応援するエクエルブランドから「エクエル ジュレ」を4月3日より全国で新発売します。

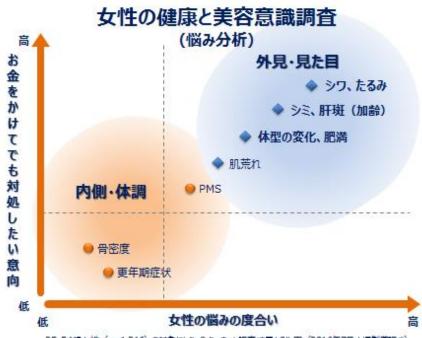


「エクエル ジュレ」は、女性の美と健康の土台をサポートする製品として開発しました。大豆由来成分「エクオール」をはじめ、「コラーゲン」「カルシウム」など女性が摂りたい成分を 1 袋にまとめた、さわやかオレンジ風味のゼリー飲料です。

女性はライフステージの中で健康面・美容面ともに様々な変化が訪れます。当社が女性約1,300名に対し行った意識調査では、「シワ、たるみ」といった外見に関しては悩みの程度・対処意向ともに高い一方、「骨」などの目に見えない部分の健康については、悩みの程度・対

処意向ともに低いことがわかりました(下記図参照)。しかし、外見の美しさを維持する上で身体の内側の健康が重要な役割を担っており、早い時期から気を配ることが大切だと言われています。

そこでいつまでも美しくいたいという女性に対し、内側のケアの大切さに気づいてもらいたいという思いから、このたび大豆由来成分エクオールをおいしく手軽に摂れるエクエル ジュレを発売します。本製品で、表面の美しさだけでなく、美と健康の土台となる内側をサポートするという新たな提案をしてまいります。



25-54歳女性 (n=1,346) を対象にしたインターネット調査結果より作図 (2016年7月大塚製薬調べ)

【エクエルブランドについて】

健康寿命の延伸や女性の活躍などが求められているなか、女性にはライフステージごとに心身に大きな変化が訪れます。

大塚製薬は長年の大豆研究から、大豆由来成分エクオールが女性の健康に密接な関係があることを発見しました。安全性・有効性を確認し、大豆を安全性の高い乳酸菌で発酵させたエクオール含有食品として、2014年に「エクエル」(サプリメント形状)を発売し、ゆらぎがちな時期を過ごす女性の健康と美をサポートしてきました。

このたび「エクエル ジュレ」を発売することで、エクオールをよりおいしく、幅広いシーンで摂取いただけるようになりました。

エクエルブランドの製品を通して女性が輝くための健康と美容を応援していきます。



大塚製薬は、今後も Otsuka-people creating new products for better health worldwide の企業理念のもと、人々の健康維持・増進に貢献してまいります。

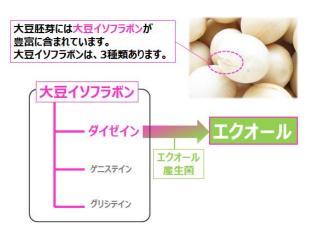
【製品概要】

製品名	エクエル ジュレ
栄養成分表示 1 袋 100g 当たり	エネルギー 79kcal、タンパク質 3.4g、脂質 0g、炭水化物 17g、 食塩相当量 0.07~0.13g、カルシウム 210mg、 マグネシウム 105mg、ビタミン D 5.0 μ g
その他栄養成分	S-エクオール 5 mg、大豆イソフラボン(アグリコンとして) 3.2mg、 コラーゲンペプチド 2,500mg
原材料名	砂糖、グレープフルーツ果汁、コラーゲンペプチド(ゼラチン)、 大豆胚芽乳酸菌発酵物、寒天/酸味料、安定剤(大豆多糖類、CMC)、 香料、増粘剤(タラガム)、酸化防止剤(ビタミン C)、 甘味料(スクラロース)、カロテン色素
希望小売価格	250円(税抜)
賞味期限	9カ月

【エクオールとは】

エクオールは、大豆イソフラボンの一つであるダイゼインから、腸内細菌の働きによって産生される代謝物です。大塚製薬は長年の大豆研究により、女性の健康にエクオールが貢献することを見出し、研究を重ね健康効果を明らかにしてきました。

しかしエクオールを産生できる人の割合は、日本 や中国など大豆をよく食べる国では約50%、欧米 人では約30%にとどまるといわれ*1大豆を食べて も、その恩恵を受けられない人がいます。また、



産生できる人も健康状態やストレスにより腸内環境は毎日変化するため、エクオールの産生量は変化し、急に作れなくなることもあります。

女性の健康維持には、エクオール非産生者はもちろんのこと、産生者も、毎日エクオールを摂取することが大切であると考えられます。

*1 日本女性医学学会雑誌, 20: 313-332, 2012